

カーボンニュートラルへの挑戦 <⑧>



スケートボードデッキが小物に

楠原木工所（松原市）

東京五輪金メダリスト西矢椋選手を輩出し“スケボーのまち”を掲げる松原市で、楠原木工所は、長年培われた確かな加工技術で数珠や仏具など様々な木工品を製造する。

国内外から銘木を選別し、素材の特徴を活かした同社の木工品づくりは、国内外から高い評価を得ており、全国各地から注文が絶えない。

こうした中、同社が近年力を入れているのがアップサイクル加工だ。使われる素材は、被災地域の倒木や境内で大きくなった樹木、さらには建て直しとなる神社仏閣の施設から出る廃材まで様々。昨年は利用されなくなったスケートボードデッキ約60枚がアップサイクル加工され、数珠などに役目を変えた。

同社の楠原正之社長は「単に再利用ではなく、使われなくなった素材に新たな価値と魅力をプラスし、循環型社会の確立に貢献する。それが、当社の考えるアップサイクル加工です」と話す。

（松原商工会議所）

詳細はこちら▶

